

平成23年度第1回山形県立博物館協議会 記録

日 時 平成23年9月21日（水） 午後1時00分～
場 所 山形県立博物館 講堂

1 開 会

2 あいさつ

- (1) 山形県教育庁文化財保護推進課長
- (2) 山形県立博物館長

3 委員紹介

4 山形県博物館協議会の会長・副会長の選出

- (1) 会長あいさつ

5 報告

- (1) 平成23年度主要事業の進捗状況について
- (2) 収蔵資料整理事業について
- (3) 地域資源のデジタル化推進事業の概要について
- (4) その他

(事務局より説明)

<質疑応答>

(1) 平成23年度主要事業の進捗状況について

○堀川委員

入館者の増加が課題であるとお聞きした。小学生が勉強のため来館していると思うが、リピート率を上げるために何か方策はあるか。

○事務局

小学生は総合学習として4～5年生が多い。中学生も班別研修等で来ている。今年度の「昆虫展」には多くの生徒がリピーターになっているようだ。また見るだけでなく、触る・作れる体験を準備し、作ったものを家族や友達に見せることで多くの方が自分も博物館に行ってみたいと思うようになれば良い。イベントの力は感じている。

○堀川委員

Q&A（博物館たんけん隊プリント）は面白い。体験コーナーでこま廻し等に指導者がいれば良い。夜間に開館していれば親も連れて来やすい。

○丸山会長

社会教育施設の活用を増やすにはどのようなことが考えられるか。

○堀川委員

興味がありどんなイベントがあるのか知っている人は博物館に来るが、知る手段のない人は何も分からないままである。

○事務局

県のアートライン事業で作成し夏休み前に小学校に配ったチラシ「夏休み子どもミュージアムめぐり」の影響が大きい。何をやっているのか分かるように館内での掲示などにも力を入れたい。

○菊地副会長

夏休みの土日に実施したイベントの取り組みが凄い。サービス精神があり、博物館への信頼度が高まる。広報はどのように行ったか。

○芳賀委員

小学生は体験だけでなく、作ったものを持ち帰ることが出来ると喜ぶ。

○丸山会長

夏休みのイベントはどのような年齢層が多かったのか。

○事務局

急遽行ったイベントであり、広報はHPのみであったが、小学生の参加が多かった。お盆ということもあり帰省客も多かった。

○竹田委員

高校生学芸員一日体験のイベントは大変良かった。忙しい中、学芸員の体験をさせていただきとても勉強になった。ぜひ今後も続けてほしい。

(2) 収蔵資料整理事業について

○松浦委員

DB（データベース）の作業は、欧米に比べて日本では遅れている。日本での取り組みは古くても戦後、一般には1960年代以降のことである。DBは、利用者には役立つが、作るほうは大変である。

山形県立博物館でこれだけ作っているのは凄い。ただし、まだまだ改良が必要である。使い慣れた人にとってなら問題はないが、一般の方が検索するには不十分である。たとえば和名の入力といっても、漢字なのか平仮名なのか片仮名なのか判断できない。また、さくらを検索する場合、「サクラ」の入力では検索ができない。さくらの和名は「～ザクラ」とか「ソメイヨシノ」などになっているので検索にヒットしない。キーワード検索などが出来れば良い。また絶滅危惧種などの公開にも考慮しなければいけないことがある。古い標本を調べるため、年代検索の方法も改良したほうが良い。

○事務局

このDB整理事業は21年度から実施し3年目のものであり、まずは出来ることを行っている。検索方法は多少改善しているが、これからの改善は予算の面も含めて今後の検討である。

○松浦委員

この事業は一度作って終わりではない。メンテナンスや内容の変更、コンピュータの性能を上げるなど、継続的な対応が必要である。

○事務局

来年度以降も継続するため、新規事業として取り掛かれるように検討したい。

(3) 地域資源のデジタル化推進事業の概要について

○堀川委員

見やすいHP（ホームページ）である。ただしキッズコーナーであれば実際子供達にやってもらって使いやすさを検証し、またクイズの問題などを子供達に考えさせれば良いのでは。子供達に自分達の博物館という意識ができる。クイズの問題に答えて貰える学芸員証なども誰でも何処でも印刷できるようにすれば良い。

○丸山会長

学校では、HPを使っての事後指導などを行っているのか。

○芳賀委員

お礼の手紙を書くことや、調べてみたいことを電話で問い合わせをする場合があるが、HPを使って事後指導しているかまでは分からない。

○丸山会長

土日の入館者増についてどう考えているか。

○事務局

今後も増えるよう、土日の増加については今後分析する必要がある。

○丸山会長

土日に博物館に行くように学校側では何か指導しているか。

○事務局

中体連の応援などで霞城公園に来る際、博物館を使用してもらっている。

○丸山会長

学校との連携はこれからもっと必要になる。

○森谷委員

HPの充実について、西ノ前土偶が大英博物館に貸し出されたことや、ヤマガタダイカイギュウは中学生が発見したことなどをHPに載せれば、中学生の目を引くきっかけになる。

○丸山会長

外国からのHPアクセスの内訳はどうなっているか。

○事務局

アジア、アメリカなど大体の地域しか分からない。外国の大学からのアクセスもあるようだ。

(4) その他

○堀川委員

新聞などメディアの力は大きい。あまり関心のない人も利用してみたいと思う。また山形美術館など（霞城公園）周辺の民間施設との連携は取れないか。特に食事

やカフェなどの情報を若い職員のブログ（やまはくブログ）で紹介し、周辺の施設の娯楽などの情報を載せれば多くの人が霞城公園周辺に来てみたいと思うのではないか。

○丸山会長

パーク（霞城公園）の利用という観点で、メディア・県・市が協力し、連携を強化できないか。

○事務局

たしかに、博物館にはshopやお茶を飲めるような休憩所がないかと良く聞かれる（要望もある）。博物館でもサイエンス・カフェのようなお茶を飲みながら受講できる講座などを共催で企画している。

○松浦委員

首都圏の博物館・美術館には、shopや喫茶店のようなものがあるところが多い。ただし、館とは別な団体が運営をしている。

博物館単独では難しいが、県や市の観光課などとの連携で、霞城公園周辺を文化・娯楽施設などとしての提供ができないか。

○丸山会長

入館料を大人も無料に、またはHPから割引クーポンを印刷できるなどの工夫はできないか。

周辺の施設と連携して、博物館の半券を持っていけばコーヒーshopなどで割引を受けられるなど考えられないか。

○松浦委員

入館料は高校生以下無料であるが、小中高の入館者の比率はどうなっているか。全国的に、利用が低い年代は中学生である。受験など忙しい時期であるが、博物館を利用してほしい一番大切な時期である。

なお、国立科学博物館では、大学と連携して大学から負担金をもらい、その大学の学生に無料パスを発行している。

○丸山委員

市内の施設との共通入場券など作れないか。

○事務局

はやぶさのイベントは、山形大学・山形市・NPOなどとの連携で行った。各場所でもらったチラシを持って施設を廻る人が多かった。また山形大学と県などで行っている科学の花咲くプロジェクトは大変人気があるイベントである。連携の強みを感じている。今後も継続して連携を考えていきたい。

○酒井委員

博物館では様々な講座を実施していると思うが、石巻市でのイベントは震災との関連のものか。

○事務局

要請があり実施したイベントである。科学の花咲くプロジェクトは山形大学や博物館・加茂水族館など多くの施設が参加している。

○酒井委員

はやぶさのイベントには、震災の影響があったのか。

○事務局

連携事業であるが、館として映像を使うイベントは初めてであった。初日は来館者が少なかったが、メディアにも取り上げられたおかげか二日目以降は立ち見が出るほど来館者があった。担当NPOもこんなに多くの来館者が来たのは初めてといていた。連携の強みを感じた。

○丸山会長

単独のプロジェクトより連携プロジェクトの方が強い。

○後藤委員

はやぶさでは協力していただき感謝している。

山形市では町並み観光として五堰・歴史館・郷土館などを巡るルートができている。市の観光課との連携が考えられるのではないか。なお、山形市では文化施設を無料にしたところ入館者は増加した。

HPに関して、見るために必要な無料ソフトをダウンロードできず、バーチャルツアーを見ることができなかった。見る側の問題だと思うのだが、小中学校ではインターネットの普及が進んでいるが、ダウンロードなどの規制が強い。学校で利用できないのは残念である。

○野口委員

私もバーチャルツアーが見ることができなかった。

博物館には多くのボランティアの方がいると思うが、ボランティアの方にブログを書いてもらってはどうか。様々なタイプの方がいると思うし、色々な視点で館を紹介できると思う。これもボランティアの方を活用する方法だと思う。

分館（教育資料館）が分かりづらい。分館としたり教育資料館としたり名称に統一性がない。またHPに中学生以上の学生や主婦を対象とした内容を盛り込んでどうか。

6 協議事項

- (1) 平成24年度の運営方針（案）について
- (2) その他

(事務局より説明)

<質疑応答>

- (1) 平成24年度の運営方針（案）について

○丸山会長

アドバイザー委員会とは新たに設置するものか。

○芳賀委員

今後、小中学校からの先生（委員）の選定などはどうなるか。

○事務局

この場で賛同していただければ、今後副館長を窓口にして設置を進めていきい。

○酒井委員

施設老朽化の改善は進んでいくのか。

○事務局

開館40年経ているなか、その都度優先順位を決めて補修は行ってきた。新しい施設の建設は現時点で構想にはないが、今後様々な方法でご意見を伺っていきたい。

○丸山会長

新学習指導要領への対応や、DB・HPなどの充実について予算的な措置は見込めるのか。

○事務局

今後、相談・検討していきたい。

○丸山会長

今後DBを、GBIF（地球規模生物多様性情報機構の略称で、国家・経済体・国際機関の多国間協約に基づく国際的科学協力プロジェクトをいう）などの全国的なものへの加盟を考えていくのか。また、DBの充実は、博物館だけの自助努力だけでは大変である。今後どのようにやっていくのか。

○芳賀委員

専門的な人材の確保など検討しなければならない。

○丸山会長

自己評価を、改善事項だけではなく、アクセス数の増加など自己アピールなどの場にしていけば良い。

(2) その他

○竹田委員

分館（教育資料館）の講堂は、かつて山形北高校で使用していたが、耐震上問題があり現在は使用していない。しかし大変貴重な建物であり、何とか保存という方向でお願いしたい。

○事務局

県指定のものでもあり、活用・保存の方向で検討できればと思う。また、博物館の運営について、予算を伴うものもあるが、工夫すればすぐ取り組めるものがある。今日の意見を参考にしていきたい。

○丸山会長

都会のように交通の便が良いわけではないので、施設を巡回するバスの運行など考えられれば良いと思う。